

キリスト教委員会のHP(<http://rakuno-ce.org>)にアクセスして事前に聖書や讃美歌の確認をしましょう。

されています。以前にも触れたように、この時代の人数の数は女性と子どもを入れないという女性や子どもの存在を等閑に付したものでしたので、実際には一万人くらいの人たちがいたと考えられます。14節はそれだけの人が満腹になり、十二の籠がいっぱいになったというしるし(奇跡)を目の当たりにした人たちがイエスを預言者だと告白しています。しかし、15節でイエスは人々が自分を預言者にするだけではなく、王にまでしようとしていることを知り、騒がしい巷間から神に近い神聖な場所である山に退くことで、預言者や王になることを明確に否定したところで物語は幕を閉じます。

本日の聖書にはイエスが指向する生き方が示されています。それは奨励題にもあるように、「力の否定」です。「王」を表すヘブライ語のמֶלֶךְ(メレク)やギリシャ語の βασιλεύς(バシレウス)は、いずれも「支配する」を意味するμήλη(マーラク)や βασιλεύω(バシレウオー)から派生した名詞です。また、「王」だけではなく、「預言者」や「救い主」の表象も、宗教と政治が渾然一体となった古代世界では「力」の象徴でした。現代の西洋語でも「力」を意味する語(英 power/独 Macht/仏 pouvoir)はそのまま「権力」の意味も併せ持っていますが、イエスは古代世界と現代世界に通底する「力=権力」に背を向け、「政治的にも宗教的にも」、あらゆる領域において「力の否定」を貫いたのです。本学の三愛主義の「人を愛し」もまた、他者の支配に背を向けるイエスの「力の否定」に通じる道です。

【2025年度秋期キリスト教教育強調週間の報告】2025年10月28日(火)

先週は秋期キリスト教教育強調週間の礼拝でした。講師をご担当くださった久保木崇先生(とわの森三愛高校宗教主任)に感謝申し上げます。先生が夢として掲げる高大合同礼拝の実現を一緒に目指したいと思います。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝後にオルガン前にお越しください。お待ちしております。

【次回の大学礼拝】2025年11月11日(火)10時40分

次週の礼拝は千葉崇先生(環境共生学類講師)に奨励をご担当いただきます。千葉先生が聖書を通して素敵なメッセージを語ってくださいます。学生、教職員のみなさん、積極的なご出席をお願いいたします。

【前回の大学礼拝(キリスト教教育強調週間)】2025年10月28日(火)

学生:47名 教職員ほか:11名 合計:58名

【大学礼拝週報】2025年度 第22号(後学期第7号)

2025年11月4日(火)午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司 式 小林昭博(宗教主任)

奏 楽 佐藤理恵(野幌教会会員)

讃美指導 相原晴伴(循環農学類教授)

前 奏 我らみなひとりの神を信ず(J.C.バッハ作曲)

讃美歌 讃美歌第二編 1番(こころを高くあげよう)

聖 書 ヨハネによる福音書6章13-15節

さんび 酪農学園大学聖歌隊

奨 励 「力の否定——政治的にも宗教的にも」

祈 り 小林昭博(宗教主任)

讃美歌 讃美歌第二編 157番(この世のなみかぜさわぎ)

報 告

後 奏 神のみむねは常に行なわれ(グラープナー作曲)

【本日の聖書】ヨハネによる福音書6章13-15節

¹³集めると、人々が五つの大麦パンを食べて、なお残ったパンの屑で、十二の籠がいっぱいになった。¹⁴そこで、人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に來られる預言者である」と言った。¹⁵イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでもた山に退かれた。

【奨励】「力の否定——政治的にも宗教的にも」

本日の聖書はこれまで複数回に分けて読んできた五千人の供食を締め括る場面です。13節は五つのパンと二匹の魚をシェアして、そこにいた全ての人たちが満腹になり、残ったパン屑で十二の籠がいっぱいになったと記